日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい JGDA ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

http://www.groupdynamics.gr.jp/index.php

第３６号
（2009年12月25日）

発行所：〒739-8521　東広島市鏡山1-7-1
広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座　浦光博研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
e-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp
発行人：浦　光博，編集担当：西田　公昭

《　目　次　》

§第56回大会（於　大阪大学）のご報告　・・・・・・・・　1
★第2009年度合同大会報告：大坊　郁夫
§本年度優秀論文賞決定　・・・・・・・・　2
★優秀論文賞選考経過と結果の報告：山口　裕幸
★受賞者の声：岡本　卓也
§第3回『優秀学会発表賞』決定　・・・・・・・・　3
★選考経過と結果の報告：相川　充
★受賞者の声：相馬　敏彦／橋本　博文／橋本　剛明／早瀬　良
§グルダイ学会大会体験記　・・・・・・・・　7
★グルダイ学会大会「初参加・初発表」体験記：津曲　陽子／山中　咲耶
★グルダイ学会大会「初スタッフ」体験記：笠置　遊
§三隅賞受賞論文の決定　・・・・・・・・　9
§事務局からのお知らせとお願い／実験社会心理学研究編集担当からのお知らせ／広報担当からのお知らせ／諸連絡先　・・・・・　9

★★　第56回大会（於　大阪大学）のご報告　★★

2009年度合同大会報告

大会準備委員長　大坊　郁夫（大阪大学）

（総会：10 月 10 日）

日本社会心理学会大会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会は，10月10～12日の３日間にわたって，大阪大学吹田キャンパスで開催されました。23年ぶりの合同大会、３日間の日程ということもあり、相応の準備をしたはずなのですが、参加者、会員の皆様には、至らぬ点にお気づきのこともおありではなかったかと存じます。今後のこともあり、ご指摘いただければと存じます。

23年前に比べて大幅な会員、参加者増があり、また、両学会の大会の運営の仕方や事務体制の違いがあり、大

会準備過程では、それぞれに今大会の開催に合わせていただいた点が少なくありません。どうぞ、事情をご賢察いただきたく存じます。

（合同企画シンポジウム「脳神経科学の発展と社会心理学」：10/10）

1日目には，AASPの会長Ng先生を迎えての社心，グルダイ，AASPとの合同企画シンポジウム「脳神経科学の発展と社会心理学」，２日目には，社心50周年記念シンポジウム「新たな社会心理学の展開と現状からの脱却」，３日目には，本大会委員会企画のシンポジウム「歴史を踏まえ，この先に生きる社会心理学研究の展開を目指すために」を開催いたしました。それぞれに多くの参加者を得まして、活発な議論がなされ、また、多くの参加者から感想をいただいております。また，１日目には，Kenneth Gergen先生の特別講演、および，韓国の趙 恩慶先生（翰林大学校）の講演があり、それぞれに多面的な質疑がなされました。各企画のご担当者にお礼申し上げます。

シンポジウムとワークショップは20件，講演2件、そして、口頭発表が164件，ポスター発表が377件（個別発表合計は541件）でした。2007年の両学会大会の個別発表数の合計500件、2008年の441件に比べて大幅な増で、合同大会の相乗効果ではないかと考えております。また、大会参加者は、招待者を含めると901名、懇親会は521名でした（両学会会員数は重複を除くとほぼ2000名ですから、約45%が参加されたことになります）。いずれも両学会の学会大会参加者数を大幅に上回りました（2008年のグルダイ大会参加者は217名、社心大会参加者は571名、合計788名でした）。なお、大会の当日参加者は240名でした。これを機会に、密接に関連する両学会の交流が密になることを祈念いたします。改めて、皆様のご協力に感謝いたします。

★★　本年度優秀論文賞決定　★★

★☆　優秀論文賞選考の経過と結果の報告　☆★

機関誌編集担当常任理事　山口　裕幸（九州大学）

本年度の優秀論文賞の選考対象論文は，実験社会心理学研究第48巻1号及び2号に掲載された全論文（原著、資料）14本のうち、選考規定により授賞対象とならない論文1編を除く13編でした。8月23日編集委員全員に選考依頼を行い，優秀と考えられる論文3編を選び，１位から３位まで順位をつけて，9月30日を締め切りとして投票をお願いしました。

18名の編集委員から投票が届き，編集事務局（九州大学大学院人間環境学研究院）にて開票を行い，規程に従って，1位票に3点，2位票に2点，3位票に1点を与えて集計しました。その結果を参考資料として，10月9日18時より優秀論文選考委員会を開催して協議した結果，以下の論文に今年度の本学会優秀論文賞を授与することを決定しました。

岡本卓也・藤原武広・野波寛・加藤潤三（著）
「共有集団イメージ法を用いた集団間関係の解析の試み」
（第48巻1号　Pp1-16）

なお，日本社会心理学会との合同で開催された大会の総会において，この結果を報告し，授賞式を行いました。岡本先生，藤原先生，野波先生，加藤先生，おめでとうございました。今後，益々のご研究の発展をお祈り申し上げます。

****

★☆　受賞者の声　☆★

◇　岡本　卓也（関西学院大学）

このたびは、拙稿に対して優秀論文賞を賜わり、誠にありがとうございました。今回の受賞は、審査員の先生方をはじめとして、多くの先生方のご助言のたまものだと思っております。この場をお借りして心から感謝申し上げます。またページの大幅な超過にも関わらず、ご配慮いただいた編集委員の先生方にも、改めてお詫びと感謝を申し上げます。

合同大会の際のスピーチでは、生産的ではない話ばかりをしてしまい、論文の内容について全く触れられませんでしたので、改めてここで述べさせていただきます。

本論文のねらいは、集団間の関係性をマクロなレベルから記述、測定、解析を試みることでした。集団と集団の関係というマクロな現象を、マイクロデータのみで議論することを避けたかったわけです。そこで、人がある集団やそのメンバーに対して抱いているイメージ、情報、認知をもとに集団と集団の境界を決定しようとする「集団共有イメージ法」を提案しました。イメージの類似性をもとにした集団間関係の認知マップを空間上に描き、その座標をもとにクラスター分析を行うことで集団間の境界線を描いたわけです。その関係性空間上に個人の好意度（マイクロデータ）を等高線として表現することで、マイクロ－マクロ分析の可能性を検討しました。このようにして得られた集団間の関係性はその他のデータとも整合性が高く、有用なものだと確認されました。

ところで、私事で恐縮ですが、昨年、本論文を含めた博士論文を提出しました。そのこともあり、著名な研究者たちは誰のもとで学び、学位を受けたのだろうかと気になり、アメリカを中心とした（社会）心理学者の系譜図を作成してみました（よろしければ、岡本のホームページ(http://www.h2.dion.ne.jp/~takuya-o/labo/index.html)をご覧下さい）。当たり前のことかもしれませんが、誰のもとで学んでいたのかは、その人の研究内容そのものに強い影響を与えます。しかし系譜図を見ていると、それだけではなく（あるいはそれ以上に）、研究のスタイルであったり、着想であったりと、表には出てこない部分にこそ、師匠の色があるように思われました。親から子へ遺伝子が伝わるように、研究室ならでは「知のストック」のようなものがあり、それが伝わっていくのかもしれません。

本論文の内容を見ても、お二人の先生の存在が背後に色濃くあるように思います。本論文の特徴として、集団間関係というマクロな特性をマクロなレベルから捉えようと試みているわけですが、この点は、修士課程までの指導教授でありました佐々木薫先生の影響を強く受けています。また、解析法については、共著者でもあります藤原武弘先生のもとで学ばなければ、生まれてこなかったと思われます。身内への言葉をこういった場で述べるのは、適切なことではないかもしれませんが、改めて、お二人の先生方から教授を賜ることが出来たことに感謝いたします。

★★　第４回『優秀学会発表賞』決定　★★

選考経過と結果の報告

選考委員長　相川　充（東京学芸大学）

2009年10月10日から12日に、大阪大学で開催された日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会において、「優秀学会発表賞」の選考が行われました。本賞は、規定により「第１著者である発表者が、発表時点において大学院在学中の者、または大学院修了後（退学後）5年以内」の会員の研究を奨励する目的で設けられた学会賞です。

以下に、今回の選考経過ならびに選考結果の概略をご報告いたします。

１．エントリーの受付

本賞の授与を希望する発表者は、大会発表申し込みの際、自らエントリーしました。エントリー総数は86でした。この中に、「大学院修了後（退学後）５年以内」の規定から外れた者3名、「すでに本賞を受賞した者は、同一の発表部門においてはその選考対象としない」という規定に該当した者1名、計4名がいました。いずれも当人に確認をとってから本賞の対象から除外しました。その結果、事前投票（第１次審査）の対象となった発表総数は82本であり、内訳は、ロング・スピーチ6本、ショート・スピーチ29本、English Session 6本、ポスター発表41本でした。

２．事前投票（第１次審査）

事前投票は、8月末から9月末にかけて、発表論文集の原稿を対象として行われました。選考委員は、理事20名が担当しましたが、エントリー数が多かったので、前回同様、選考委員が担当する審査部門を「口頭発表」41本を担当する10名と、「ポスター発表」41本を担当する10名の２グループに分けました。
各選考委員は、担当した部門の中から、受賞に該当すると思われる発表3本以内（「該当なし」も含む）を選び、それぞれに1点を与えました。集計の結果、それぞれの部門において得票数が多かった順に上位3つ、計12本の発表が当日審査に進みました。

３．当日審査

当日審査は、第1次審査を通過した12本の発表に対して、大会期間中に行われました。1つの発表に対して3人の選考委員が、「発表内容」と「プレゼンテーションの仕方」の2つの観点から5段階で評価を行いました。

４．最終集計

最終集計は、事前投票と当日審査の結果を合わせて行いました。その結果、部門ごとに最高点を獲得した下記の発表を選考委員会での審議を経て、第56回大会の優秀学会発表賞としました。

＜ショート・スピーチ部門＞
◆相馬　敏彦　ネットワークを“共有すること”は“共有しないこと”の裏返し？
－葛藤対処に及ぼす共有ネットワークと独自ネットワークの機能的独立性－

＜ロング・スピーチ部門＞
◆橋本　博文　相互協調的とされる心理の継時的ダイナミックスに関する研究

＜English Session＞
◆橋本　剛明　Transgressor Apology for the Victim and the Third-party: Its Effects on Cognition, Emotion, and Motivation（共著者：唐沢かおり）

＜ポスター発表部門＞
◆早瀬　良　患者満足度を規定する要因の検討　－医療従事者間の協力行動は患者の目にどう映る？－
（共著者：坂田桐子・高口央）

なお、受賞者は、受賞した内容に関する論文を第１著者として『実験社会心理学研究』に優先的に投稿する権利を有します。すなわち、「特別論文」に準じて主査および副査１名で審査を受けることができます。ただし、投稿の権利は、メールマガジンJGDA Flash上での受賞発表日（2009年10月28日）から１年間に限って有効です。優先投稿を希望する受賞者は、2010年10月28日までに編集事務局へ原稿をお送りください。

****

★☆　受賞者の声　☆★

◇　ショート・スピーチ部門：

相馬　敏彦（川口短期大学）

このたびは、評価いただきありがとうございました。受賞の連絡をいただき、一粒で二度おいしいとはこのことかと、学会発表のおいしさを改めて認識いたしました。

というのも、実は、今回発表したテーマに取りかかったきっかけは、昨年度のグループ・ダイナミックス学会にあります。そこでの私の発表に対してあるご質問をいただきました。それは一見すると発表結果と相反するような内容でしたが、どうも議論がうまくかみ合っていないように感じていました。一体どうすれば解決するのか？このことを考え進めるうちに、今回のテーマである“機能的独立性”を想定するに至りました。つまり、今回の（少なくとも僕にとっては）おいしいネタ自体、前年度の学会発表によって得たわけです。その上さらにこのように賞までいただき、学会発表はおまけつきお菓子以上においしいと思わざる得ないわけです。

ここで、改めて審査員の先生方に感謝いたします。この受賞理由が、「おもしろい」、「悪くはない」、「おもしろくなくはない」、「無難」・・のいずれなのかわかりませんが、多少なりとも好意的な反応であることは間違いありません。これは、学会に参加しようとすると、時に、長のつく高地位者から「学会（に参加すること）ってそんなに大事かね？」といわれる立場にある者にとっては、大きな社会的報酬となり、学会参加への障害に打ち勝つ原動力となります。その意味では、この制度の維持にご尽力をいただいた全ての先生方に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

****

◇　ロング・スピーチ部門

橋本　博文（北海道大学大学院文学研究科）

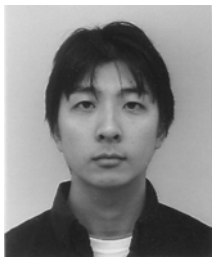
このたびは優秀学会発表賞というかたちで本発表を評価していただきましたこと、大変嬉しく光栄に思います。ご選考いただきました審査員の先生方、また本発表に対してご質問およびご指導いただきました諸先生方に感謝申し上げます。本発表では、文化心理学研究において扱われている日本人の相互協調性に焦点を当て、実施したいくつかの研究知見をもとに、日本人の相互協調性の背後にあると考えられる「予言の自己実現」のプロセス ―― 人々は、個人的には相互独立的な生き方を望んでいるにも関わらず、世間一般の人たちは相互独立的に行動しないだろうと予想するため、また相互独立的な行動を採用するとまわりの人たちから嫌われてしまうだろうと予想するために、相互協調的に振る舞う ―― を指摘しました。文化的に共有されている信念を、自分の行動に対する他者の反応予測に用いる「ゲームプレーヤー」として、特定の文化を生きる個人をとらえるわれわれのアプローチには、まだまだ乗り越えていかなければならない課題が多いと考えておりますが、今後実証的・理論的研究を重ねていくことで、いつか心と文化の相互規定関係を解明するための有用なアプローチとなると信じています。まだまだ未熟な身ではありますが、この受賞を励みといたしまして、より一層研究に精進してまいります。

****

◇　English Session

橋本 剛明　（東京大学大学院人文社会系研究科）

この度は、このような名誉ある賞をいただき、大変有難く感じております。



本発表は、ある人物が他者の行動によって被害を受けるという社会的苦境の状況において、その原因となった侵害者による"謝罪"が、その関係回復にどのように寄与するかという点を検討したものでした。特に、今回の研究のポイントとして、被害者が行う判断に加えて第三者的な立場から行われる判断を考慮し、両者を比較した点、また判断者が経験する認知的・感情的なプロセスのモデル化を試みたという点が挙げられます。そして、侵害者の謝罪が被害者・第三者それぞれの"許し"に対して与える影響は、被害者においては情緒的共感によって、第三者では責任帰属の変容によって、それぞれ媒介されているという結果を報告いたしました。

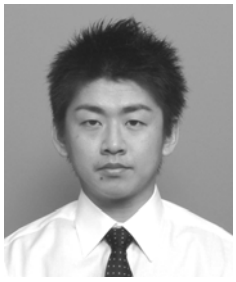
今回の発表は、初めて公の場で行った英語による学術研究発表でした。将来的に国際学会等で英語によるコミュニケーションを行うことなどを見越して、ひとつのチャレンジとして今回English Sessionへのエントリーを敢行したのですが、自分が予想していたよりも多くの収穫を得ることができました。特に、自分の研究領域とは異なるご専門の先生方や、海外からいらしている研究者の方々など、普段の国内学会ではなかなか接する機会のない方々に発表を聞いていただき、非常に多くの貴重なご指摘・コメントをいただきました点が強く印象に残っております。専門領域の異なる研究者の方から関心を持っていただくとともに、国外の方とも文化を越えて問題意識を共有しているということを改めて認識し、今後自身の研究を行っていく上での、とても大きな励みとなりました。

今回の発表にあたり、研究計画の段階から熱心に指導してくださいました唐沢かおり先生、アドバイスとエールを頂いた先輩・後輩の面々、そして研究室の内外を問わずご支援いただきました多くの方々への感謝を感じております。また、発表の場にお越しくださり、貴重なご意見をくださった先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。最後になりますが、この度、このような賞を授けてくださった審査員の先生方と、スムーズな進行のためにご尽力くださった大会スタッフの皆様、そして研究発表の機会を提供してくれた本学会に、感謝申し上げます。

****

◇　ポスター部門：

早瀬　良（広島大学大学院総合科学研究科，現所属：岡山大学大学院保健学研究科）



この度は優秀学会発表賞という名誉ある賞を頂戴し，大変うれしく思います。本発表を評価していただいた諸先生方に心より御礼申し上げます。

本発表では，医療の質を反映する指標の1つと考えられている患者の満足度について，患者に対する調査だけではなく，患者と看護師のペアデータを収集し，看護師の業務遂行のあり方に対する看護師自身の自己評価ならびに患者からの評価と，患者満足度との関連をより直接的に検討した結果を報告いたしました。これまでの研究では，病棟単位で検討した場合，患者の満足度とその病棟の看護師の職務満足度が関連することが報告されてきましたが，患者と看護師のペアデータを用いた研究はほとんどありませんでした。そこで本研究では，受け持ち制（1人の看護師が1人の患者を担当し，主となってケアにあたる）という制度を採用していた病院において，その看護師に対する評価が満足度と関連すると推測し，患者と受け持ち看護師のペアデータを収集しました。

また，近年多様化した患者のニーズに応えるためには，チーム医療を機能させることが効果的であるということが明らかになっています。そのため，本研究では，患者の満足度を構成する要素として，医療従事者個人に対する評価に加え，職種間の連携という概念を加えました。結果，患者による「看護師の態度評価」と「職種間の連携評価」が患者の満足度と関連すること，そして看護師が職種間の協力行動に取り組んでいるという自己評価は，患者からの「職種間の連携評価」を高め，満足度が向上するという関連が示されました。本知見は，今後ますます専門分化が進むことが予想される医療専門職において，職種間の連携という行動が患者からも評価され，医療の質向上につながる重要な機能を持っている可能性を示すことができました。そのため，今後も医療現場という複雑な組織構造における集団間行動について研究する意義があるものと考えております。

最後に，本発表は，病院関係者の皆様をはじめ，研究計画から発表までご指導いただいた坂田先生，そし

て研究室内外の多くの方々に協力をいただき実施することができました。この場をお借りして，御礼申し上げます。この受賞を励みとし，研究活動に邁進していく所存ですので，今後ともよろしくお願い致します。

★★　グルダイ学会大会の体験記　★★

グルダイ学会大会に初めて参加・発表された方、そして初めてスタッフをされた方に体験記をいただきました。お読みいただき、「自分もあの頃はこんなだったなぁ」と、回想いただくもよし、「いや、私は違ったなあ」と考えていただくもよし、「若手の方たちはこんな風に感じていたのか」と思うもよし・・・是非ご覧ください。

◇　グルダイ学会大会「初参加・初発表」体験記

津曲　陽子（九州大学大学院　人間環境学府）

10月10日～12日に，日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会が開催されました。開催地の大阪へ向かう新幹線の中で，私は一人，発表原稿を握り締め，口頭発表のシミュレーションを何度も行っていました。緊張状態が続いていたせいか，握り締めていた発表原稿は，掌の汗でぐったりとしていたほどでした。

発表会場に到着すると，緊張と興奮がさらに高まりました。特に，自分の発表出番を迎えた際は，あふれんばかりの先生方を目の前にしたことで，緊張が極度に達し，一瞬からだが固まってしまいました。そのため，発表時間として与えられた13分間は，無我夢中でプレゼンテーションを行っていた記憶しか残っていません。

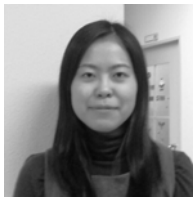
今回の発表に用いたデータは，私が大学院生になって初めて取り組んだ調査に基づくものでした。特に今回は，チームレベルでの検討を行った研究として発表させていただきました。質疑応答の時間では，チームレベルでの検討に関する問題点や改善点など，温かいご指摘をいただきました。非常に充実した15分間を経験することができました。

また，学会の懇親会では，私の発表に耳を傾けてくださった先生方より，研究内容に関するたくさんの貴重なコメントをいただきました。今回のご指摘を参考にさせていただきながら，次の調査をより良いものにしようと，自分自身を奮い立たせることができました。

さらに，3日間を通して，様々な先生方の発表を拝聴させていただきました。特に，いつも研究室で読みふけっていた論文の著者の顔を拝見したときは，感動で胸がいっぱいになりました。このときもまた，緊張で頭がいっぱいとなり，御挨拶できる余裕がありませんでしたので，来年はぜひ，直接お話をさせていただけたらと思っています。

最後になりましたが，今回の合同大会では，たくさんの刺激を受けることができました。そして，たくさんの刺激を受けることによって，これまで抱いていた“研究者になりたいなぁ・・・”という願望を，“絶対に研究者になるぞ！”という強い決意に改めることができました。来年の学会でもまた発表ができるように，日々修行を積み重ねたいと思っています。

山中　咲耶（名古屋大学大学院　教育発達科学研究科）



今回、初めて「大会」というものに参加し、ポスター発表をさせていただきました。「大会」とは、いったいどのような雰囲気なのか、自分が発表する研究にどのような反応があるのか、期待と不安を抱きながら臨みました。今、大会を終えて振り返ってみると、研究発表やシンポジウムを通して、社会心理学という研究分野に対して、また自分の研究に対してより深く考えるきっかけを得ることが出来たように思います。

自分のポスター発表では、見に来て下さった方々と有意義な議論ができました。そこでは、あたかも臨時ゼミが開かれたかのような雰囲気になり、「学会って自分の研究をお披露目するだけでなく、参加されている方々との交流の中で新しい視点やアイデアを得る場でもあるんだ！」と実感しました。

さらに、自分の研究で数多く論文を引用させていただいた先生が直接来て下さったことも大きな感動でした。研究が単に論文集や学会誌の中で進められているものではなく、実際に多くの研究者の手によって脈々と熱く行われているものだということを改めて実感できたように思います。

また、個々の研究発表やシンポジウムでは、１つ１つの研究を深めることだけでなく、社会全体から見渡した時、この分野や自分自身の研究がどのような位置付けで、どのような意義をもっているのか、ということについて考えるきっかけになりました。普段、自分の研究に集中しすぎていた私にとっては、とても新鮮で、心理学全体を広く見渡すきっかけになったように思います。

今回の大会に参加して、これから研究を進める際、「自分の研究をとことん深めていくこと」といった縦軸を掘り下げることと、「自分の研究から一歩離れ、社会心理学という研究分野全体をとらえること」といった横軸を見渡すこと、この双方の視点を意識しながら、研究を進めていきたいと感じました。

◇　グルダイ学会大会「初スタッフ」体験記

笠置　遊（大阪大学大学院人間科学研究科・日本学術振興会特別研究員）

日本社会心理学会と日本グループ・ダイナミックス学会の合同大会が阪大で開催されるらしい、という話を聞いたのは2年前の秋頃だったでしょうか。まだ修士課程にいた私の頭に、学会スタッフといって思い浮かぶのは、案内板を持って主要駅に立つ係員や、口頭セッション中にベルを鳴らす係のように、当日会場で動くスタッフの姿。「学会運営は大変！」という噂はよく聞いていたのですが、何がどのくらい大変なのかは全く予想すらできませんでした。

2年も前から先生方、先輩方が様々な調整をしてくださり、実際に私たち院生が関わり始めたのは、開催の半年前頃。学会参加は何回も経験しているものの、誰も運営側に立った経験はなく、しかも、2つの学会の合同大会ということで、まるで雲をつかむような心地でした。大会の全容を把握するにつれ、やらなければならない作業や課題が増えていくといった状態に。時間をかけて準備をしても「これで大丈夫」と安心できず、何回もミーティングやメールで1つ1つ議論し、決定していくという日々が続きました。前日の夜中まで準備は続き、いざ当日になると、夢中で事に当たるだけであっという間に大会は終わりました。

ここまで、大変なことばかり書いてきましたが、スタッフとして携わり、良かったと思えることも多々あります。まず、私は受付を担当しましたので、ほぼ全員の先生方のお顔を拝見できたことは幸いでした。総会やシンポジウムをはじめ、セッションに参加できなかったことは残念でしたが、開催に向け、研究室内はもちろん、普段なかなか交流できないOBの先生方、他分野・他研究室の学生さんと交流できたことも大きな財産となりました。それに、様々な事務作業をこなしたことで、皆どこの会社でもやっていけるのではないかという自信もつきました。

「阪大で開催してよかった」と思っていただけたかどうか不安も残っておりますが、私たちとしてはできる限りのことを精一杯頑張った思いはあります。行き届かなかった点など、皆さまからご意見をいただければ真摯に受けとめて、またの機会に生かしたいと思っております。大会開催にあたり、ご協力をいただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

★★　三隅賞受賞論文の決定　★★

2007 年、および 2008 年の三隅賞は、下記の論文に決定いたしました。

唐澤かおり（東京大学）

【2007 年】

Kenji Noguchi

Examination of the content of individualism/collectivism scales in cultural comparisons of the USA and Japan.

【2008 年】

James H. Liu, Li-Li Huang, Catherine McFedries

Cross-sectional and longitudinal differences in social dominance orientation and right wing authoritarianism as a function of political power and societal change.

★★　事務局からのお知らせとお願い　★★

◆日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会準備委員会からの報告

［合同大会の総発表件数］

ポスター発表：376 件、ロング・スピーチ：15 件、イングリッシュ・スピーチ：11 件、ショート・スピーチ：138 件、合計　540 件の発表でした。他に、シンポジウム+WS が 20、講演が 2 件ありました。

個別の発表取り消し・不成立，発表者変更，論文集の記載ミスなどについて，以下の通りです。

［発表取り消し］

番号: L01-02

氏名（所属）：曹 陽　（関西大学）

題目: 同期型オンラインシステムを用いた施設選択実験　－回答者の特徴を理解するためのアクセスログの活用事例２－

番号: S14-03

氏名（所属）：松本 良恵・神 信人（淑徳大学）

題目: 社会的交換における関係進化のシミュレーション

番号: S28-03

氏名（所属）：黒沢　香（東洋大学）

題目: 大学生の犯罪不安: 性別，被害経験および被害リスク認知から

番号: P07-34

氏名（所属）: AungMoe Tin　（東北大学）

題目: Self-Construal as a Mediator of the Relaitonship between Individualism-Collectivism and Conflict Management Styles

[不成立]

番号: E01-02

氏名（所属）: Yukihiro Itoigawa　（Wisdom Inc.）

題目: Social Cognition: Mission oriented- future, self-esteem-recovery 2005,experimented 1968 right?

[発表者変更]

番号: P02-15

氏名: 張 筱→大坊 郁夫

所属: 大阪大学

題目: 青年期の愛着スタイルが親密な他者への自己開示に及ぼす影響

番号: P05-35

氏名: 久光達也→岩淵千明

所属: 川崎医療福祉大学

題目: 「社会的かしこさ」に関する研究（15）－社会適応観との関連性－

番号: P07-14

氏名: 木村敦→和田有史

所属: （独）農研機構・食品総合研究所

題目: 青年期以前の家庭での食習慣と大学生の伝統食嗜好との関係

[発表論文集記載ミス]

P.1130

[誤] 鈴木 綾子　468

[正] 鈴木 文子　468

◆第 56 回大会総会成立について

去る 2009/10/10 に開催された第 56 回大会総会は、総会出席者数が正会員の過半数に達しなかったため、規程により「仮総会」となりました。仮総会の場合、「その決議事項を全会員に通報し、その後1月以内に会員総数の過半数が文書によってこれに反対しないときは総会の決議としての効力を発するものとする」ことが定められております（学会会則細則第 11 条）。そこで、2009/11/7 付けで総会の議事録・資料を全会員に送付させていただきました。

2009/12/7 までに、会員総数の過半数の方からこれに反対する文書を事務局は受け取りませんでしたので、規程に基づき、仮総会の決議内容が承認されたことになりました。ご報告申し上げます。

◆第 57 回大会について

以下の予定で開催予定です。多くの会員のご参加をお待ちしております。

開催校：東京国際大学人間社会学部

開催場所：東京国際大学第１キャンパス（埼玉県川越市）

開催日程：2010 年 8 月 28 日（土）～29 日（日）

準備委員長：角山剛先生（東京国際大学）

★★　実験社会心理学研究編集担当からのお知らせ　★★

総会で承認をいただきましたが，より的確で迅速な論文審査を実現するために，以下の３名の先生方に編集委員に加わっていただきましたので，ご報告申し上げます。（五十音順）

池上知子　先生（大阪市立大学）
作道信介　先生（弘前大学）
八ツ塚一郎　先生（熊本大学）

☆☆　広報担当からのお知らせ　☆☆

◆JGDA_Flash：グルダイでは【日本グループ・ダイナミックス学会　広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash)を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思いますが、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、以下のアドレスのグルダイ広報メールマガジン運営担当マスターにお願いいたします。

office@groupdynamics.gr.jp

◆会員の皆様がお書きになった新著を、400字程度でご推薦いただき、上記までメールにて随時ご送付いただきたいと思います。なお、ご推薦の文書はなるべく著者でない方に書いていただき、ご著書に関する出版社等の情報とともに、その推薦の方のお名前とご所属などもお書きくださいますようお願いします。これまでに掲載された記事は以下のWEBで閲覧できます。

http://www.groupdynamics.gr.jp/bookreview/index.html

◆研究会案内等についてのニュース記事の掲載希望も大歓迎で受けつけています。上記のアドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、以下のWEBで閲覧可能です。

http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs2.cgi

☆☆　グルダイ学会関係連絡先　☆☆

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

◆【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは
中西印刷株式会社 学会部　（日本グループ・ダイナミックス学会担当：糸魚川・岡田）
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL: 075-415-3661　　FAX: 075-415-3662　　e-mail：jgda@nacos.com

◆学会運営・対外業務関連は
日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
〒739-2695　広島県東広島市黒瀬学園台555-36
広島国際大学　心理科学部　臨床心理学科　西村太志研究室
E-mail：sec-general@groupdynamics.gr.jp

◆投稿論文・学会誌編集関連
日本グループ・ダイナミックス学会編集事務局
〒812-8581　福岡県福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学大学院人間環境学研究院　人間科学部門心理学講座　山口裕幸研究室
E-mail：jjesp_ed@hes.kyushu-u.ac.jp

◆ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは
静岡県立大学看護学部　西田公昭研究室
〒422-8526　静岡市駿河区谷田52-1
TEL: 054-264-5486　Fax：054-264-5099（大学事務局）
E-mail：office@groupdynamics.gr.jp までお送りください。
また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

◎（編集後記）
鍋が恋しい季節になりました。最近白菜と豚肉のミルフィーユ鍋をよく食べますが、研究も同じで、白菜（理論）と豚肉（実践）の両方のハーモニーによって、おいしい（？）研究が出来上がるのではないでしょうか。･･･カラマワリ古谷／　今号から少し写真を載せてみましたがいかがでしょうか。ところで、大会懇親会では大坊先生の御厚意による高級ワインが特別に用意されていたのですが、不届きにもそこにへばりついてしまい、多くの方々がご賞味される前に、がぶ飲みして空けてしまました。たいへん申し訳ありません(>_<)。･･･コウネンキ西田